砂名の ベトナムに乾杯

第９回　ベトナムあるある自然編

ベトナムに来て5回目の雨季。今では慣れて、雷雨が来る寸前で洗濯物を取り入れられるまでになったが。2015年。Standing BAR【日本酒で乾杯！】の開店初日は豪雨だった。満席だった店内の壁伝いに水が流れ出して驚いたが、居並ぶお客様たちはベトナム歴が長く、「ベトナムあるある〜」と笑っている。「雨が漏れるなんて千客万来の兆しだよ」と励まされたのを覚えている。

昨年の台風時には二階の別室で雨漏りし、同じ階の弊店まで水が流れ込み、モップで水を掻き出したのだが、階段は滝のよう。水が引いた後、板張りの床はベコベコになった。水害に遭われた日本の方たちからすると「そんなの大したことではない」と一蹴されるかも知れないが、初めての体験だった。

ある日、店に行くと、カウンターの上に長い板が掛け渡されている。

「誰？ こんなところに板なんて置いたの」

ふと上を見上げると天井がない！ 落ちたのだ。カウンターの上に物を置いていなかったので被害はなく、営業中でなかったのがせめてもの救いである。

それよりも落胆したのは、天井を修理に来た業者さんたちである。泥だらけの汚い足で、断りもなしにカウンターに上がり、あちらこちら足跡だらけ。「養生」という概念がないため、彼らが出て行った後は、そこらじゅう泥だらけの木屑だらけだった。割れた板の継ぎ目には色目の違うペンキが塗られ、フランケンシュタインのようだった。

少々の雨ならさっと雨具を羽織ってバイクで走り抜ける。冠水の多いホーチミンだが、水が引くのも比較的早い。

ある日、何かがパタパタと落ちて来た。大きさは10cm四方ぐらい。どこか「きくらげ」に似ている。よくよく見ると「コウモリ」だった。弱っていて動けなくなっていたので、階下の牛めし屋さんの女性スタッフ、ガンちゃんを呼ぶと、悲鳴を上げて階下に逃げていった。まもなく厨房のチーフ、ユゥンさんが来て、ビニールの買い物袋を手袋がわりにはめると、ひょいとコウモリを掴み、袋の口を締めて持っていってくれた。屋根裏に棲息していたのだろうか。廊下の天井が外れていて、そこから舞い込んだものと思われる。生コウモリを見たのは生まれて初めてだった。小さくて可愛いが、「狂犬病」やその他、伝染病の媒体でもあるので要注意だ。今はもういなくなった。

その他、店舗でもサービスアパートメントでも、ゴキブリや蟻、ゲジゲジなど良く出て来ていた。

小さなゴキブリは家の中にいる「家ゴキブリ」、長さ5cmぐらいの大ぶりなゴキブリは「外」から侵入してくるのだそうだ。図体が大きいだけで動作が鈍く、週刊情報誌を丸めて軽く叩いただけですぐひっくり返る。とどめにベトナム製の駆除スプレーを掛けると、なんなく退治できる。日本のゴキブリは素早く強靭で、ハノイ北部のゴキブリは向かって飛んでくる（攻撃してくる）のだそうだ。それにくらべてホーチミンのゴキブリは大人しく、頭のクリーム色の大きな班がまるでハゲているようで、私は「フランシスコ・ザビエル様」とお呼びしている。大騒ぎするほどでもないのだが、お客様がいらっしゃる時に布教活動にいらしては困るので、日本からコンバットを持って来て設置した。良く効く。一階の牛めし屋さんも全館駆除してくれたので、今では見かけなくなった。

月森砂名（つきもりさな）

奈良県出身。同志社大学文学部卒業。2015年よりホーチミン市にて、日本酒の普及を目的に、ベトナムで初の日本酒専門店、角打ち【日本酒で乾杯！】を立ち上げる。東京で舞台写真の撮影や舞台制作に従事する一方で、2001年より「月森砂名」名で、小説やフォトアートの作家活動を行う。2009年設立のNPO法人 Layer Boxにて、日本の伝統文化・伝統産業について、大学、高校、専門学校などと、プロモーションビデオ、3D、CGなどでコンテンツ制作を行い、世界に発信する事業に取り組む。

p34_砂名の□ トナムに乾杯_09.indd 34　2020/08/11 14:23